

後志地区 新規就農者紹介



【就農のきっかけ】

就農前は新聞記者として勤めており、会社組織で働いている中で裁量のある仕事をしたいと考えようになりました。

農業経営は裁量が大きく、生産性の改善など、事業としての伸びしろがある産業だと感じています。また女性の単身農家の事例は少なく、女性単身の経営者としてロールモデルになることで、地域における社会的な価値観を変化させたいと思い、就農に挑戦しました。

【就農までに苦労した点】

農地を探すことが最も苦労した点です。就農を決意した後、本州のアパートを引き払って、車一台で北海道へ移住しました。

酪農も含め、道内複数の自治体で新規就農を目指して研修を受けましたが、単身者の新規就農は受入先を見つけるのが困難でした。

北海道まつい農園（仁木町）

松井 三奈 さん

就農年：2025年4月

経営形態：園芸野菜

作物：ミニトマト

「北海道まつい農園」Instagram はこちら→

2025年6月取材



【仁木町で就農した理由】

一番の理由は人です。仁木町は新規就農者への受け入れの間口が広く、単身者での就農事例も多いです。町・JA及び新規就農者受入協議会のサポート体制も手厚く、女性単身者でも快く受け入れてくださいました。また研修先の指導農家も親切に相談に乗っていただいたことも、仁木町での就農を決めた理由です。

さらに仁木町はミニトマトの生産地でもあり、少ない面積で収益が見込める施設園芸から就農できるのももう一つの理由です。

【就農して感じたこと】

自分の責任で裁量を持って働くことができるので楽しいです。会社員を辞めて、退路を断ったことを不安に思う時もありましたが、今は就農してよかったと感じています。

【就農して苦労したこと】

先日トマトに病気が発生して対応に苦慮しました。研修中は従業員の立場でしたが、営農を始めると農場のトラブルが直接自分事になるので感じる重みが違います。今回は農業改良普及センターに診断いただき対応することができました。

【栽培について】

現在は農地、施設等を賃貸で営農しています。20aの農地にD型ハウス6棟、連結型ハウス12連棟の施設があり、ミニトマトを栽培しています。

ミニトマトの品種は主にアイコで、試験的に他の品種も栽培をしています。

【作業中の松井さん】



育苗ハウスで苗を育て、5月末に定植をしました。収穫は7月初旬から開始する予定です。

「毎日お世話をしていると愛着が湧いてきます」と嬉しそうにお話していました。

【地域との関わり】

研修先の親方、仁木町役場、JA、農業改良普及センター、アイコ組合と密に連携を取りながら営農を進めています。みなさん協力を依頼するとすぐにつけてくれ、本当に助けてもらっています。

【冬季の過ごし方】

経営のことを考える期間に充てたいと思っています。計画を見直して改善点を探し、PDCAを回す取組をします。

【活用した事業】

新規就農者育成総合対策のうち経営開始資金を申請予定です。研修期間はアルバイトとして勤務していたので就農準備資金は利用していませんでした。ほかに日本政策金融公庫からの融資を受けています。

就農は自己資金だけで考えると敷居が高いですが、融資や補助事業を活用し、作物を柔軟に選択できればそれほど元手は必要ないと思います。ただ1年分程度の生活費はがあると安心だと思います。

【アイコ】



栽培品種のアイコはプラム型のかわいい見た目が特徴。甘みと酸味のバランスが絶妙でお弁当やサラダにぴったりです。果肉が厚く、ゼリー部分が少ないので食べ応えがあります。

【今後の展望】

3年以内にはアスパラの栽培を開始したいです。将来的には法人化して、営農面積の拡大や従業員の雇用を行い、健全な経営を目指します。

また、新規就農者研修の受け入れ先になりたいと思っています。自分が助けられたように、悩んでいる人がいたら助けてあげたいと思います。

【今後、就農する方々に伝えたいこと】

やりたいと思っていることを口に出しましょう。誰かが助けてくれます。

行動して自分の足と目で土地や人を確認することが大事です。

【松井さんにほ場を案内していただきました】



「単身での就農を迷っている人がいたらぜひ私に声をかけてください。」と力強いお言葉をいただきました。